



北畠親房 篇2

親房 籠る

親房は、息子の顕家らと共に多賀城（宮城県）に赴いていました。鎌倉幕府の残党が鎌倉で反乱を起こし、足利尊氏がこれを討伐します。尊氏は、討伐後そのまま鎌倉に居座り、後醍醐天皇に対して反抗的な態度をとります。これに対して天皇は、尊氏らの武士集団の討伐を命じますが、逆に京都から追い出されてしまいました。天皇は、比叡山（京都市と大津市の境目にある山）に退きますが、尊氏に退位するよう迫られると吉野山（吉野町）に逃れます。東北から帰還し、親房は天皇と吉野山で合流し、一時的な仮の宮を開きます。

尊氏は、それに対抗し京都で、光明天皇を即位させます。光明天皇を北朝、ご醍醐天皇を南朝と呼び、天皇が二人いる南北朝時代に入ります。南朝の実質のトップとなった親房は、南朝勢力の拡大のため伊勢神宮の勢力を味方に引き入れます。親房は、伊勢神宮の近くの港から再度東へ（関東）赴くこととなります。親房は、数年にわたって関東で北朝と奮戦しますが徐々に劣勢になり最終的には吉野山に戻ります。帰還後、後醍醐天皇は死去しており、その後は、南朝の天皇として即位した後村上天皇を盛り立てていきます。

一時は、南朝が京都・鎌倉を奪還しますが、その後、北朝優勢となり吉野からも退きさらに奈良の南部の方に逃れ、失意のままこの世を去ります。親房の遺体は、宇陀市榛原福西に葬られたとも、五條市賀名生あのみに葬られたとも言われています。

今回は、南朝のその後と北畠氏についてみていきたいと思います。

